

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	新潟市北区役所
建設地	新潟県新潟市北区東栄町1丁目地内
用途地域	第一種住居地域、第22条区域
建物用途	事務所、集会所
竣工年	2020年11月 予定
敷地面積	9,611.81 m ²
建築面積	2,076.70 m ²
延床面積	4,482.28 m ²
階数	地上3F
構造	S造
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2019年8月1日



2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{62.2}{31.6} = 1.9$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.6		バリアフリー計画	3.0
			維持管理	4.5
			設備の更新性	3.2
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.8		耐震・免震・制震・制振	3.8
			信頼性	3.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.5		建物外皮の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.5		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

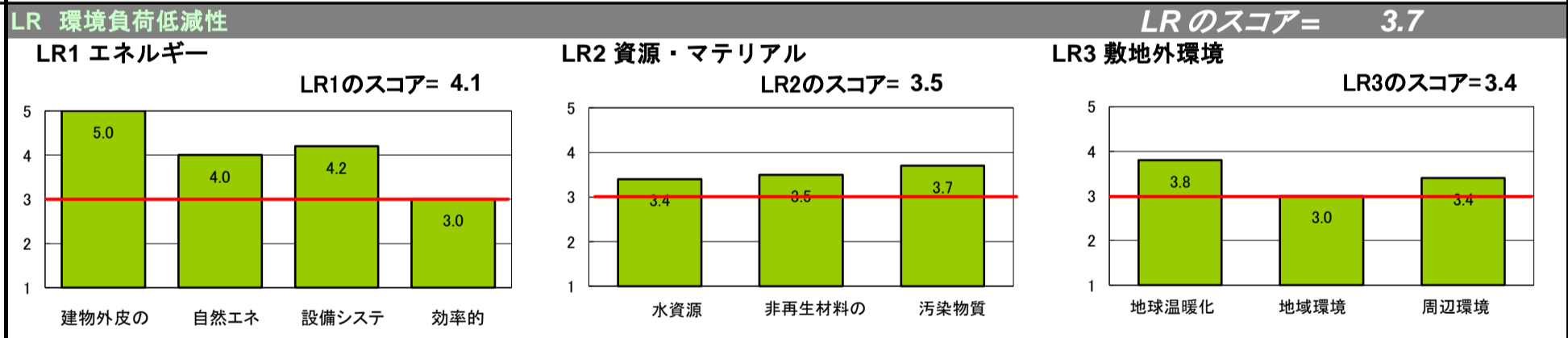
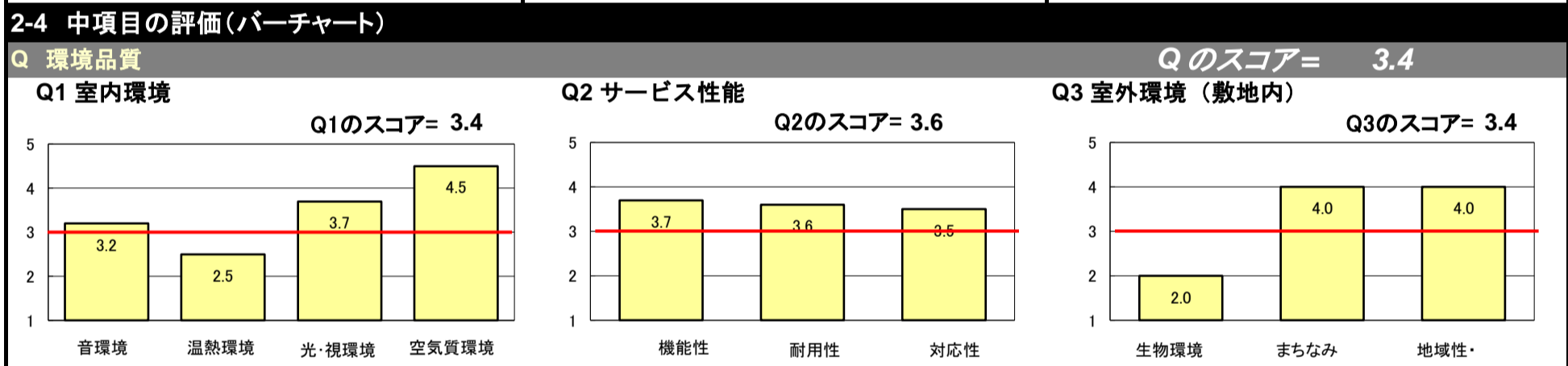
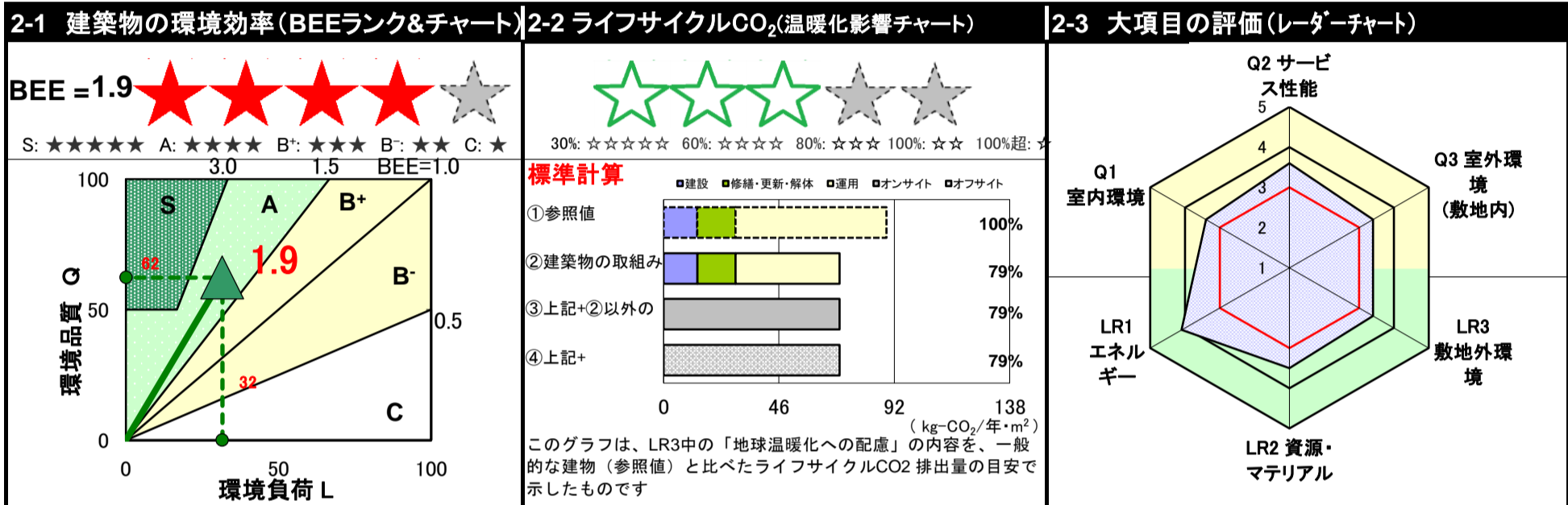
- ①維持管理しやすい施設。変化に柔軟に対応できる空間構成。可能な限り誘導基準に適合させたバリアフリー法。
- ②建物天井の脱落対策を行い、安全確保と施設機能維持の確保を図る。
- ③建物1階床は、洪水に対して浸水しない高さに設定。
- ④庇やブラインド等の設置による熱負荷抑制。太陽光発電設備の設置。
- ⑤リサイクル建材、省水型機器、再利用できるユニット部材を使用。
- ⑥既存樹木の保存継承。各所に空地を設け景観と環境に配慮
- ⑦ピロティや広場を設け賑わいの創出。周辺の公共施設を歩廊でつなぎ、外観的にも機能的にも一体感を生み出し、北区の中心地としての求心力の創出と、景観形成に配慮。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟市北区役所	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市北区東栄町1丁目地内	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、第22条区域	平均居住人員	226人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,469時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年8月1日
敷地面積	9,612 m ²	作成者	新潟市建築設計協同組合
建築面積	2,077 m ²	確認日	2019年8月2日
延床面積	4,482 m ²	確認者	新潟市建築設計協同組合



3 設計上の配慮事項		
総合	<p>本施設は、区役所機能と公民館機能を持ち合わせた複合施設である。地域のよりどころとなることはもちろんのこと、区民の交流を促進する場を整備するとともに、多様な区民活動を支援する拠点となる施設とする。また、耐震性や災害対応に備えた安心安全で、将来変化にも柔軟に対応できるフレキシビリティを持ち、効率的なエネルギー利用や環境負荷の低減を図るなど地球環境にやさしい施設とする。</p>	
その他	<p>区役所と公民館、それぞれの運営時間の違いから相互間のセキュリティ、空調コントロールに配慮。また、建築基準法による避難安全検証法により細部検証を行い最善の計画とし、快適性と利便性の向上とコストの縮減を図った。</p>	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 窓ガラスにはLow-e複層ガラスを採用し、ブラインドの設置と庇の設置により温熱環境とグレア対策に配慮。 建物中央に吹抜け空間を設け、上部にはトップライトを設置し、自然光の取り込みと自然換気により室内環境に配慮。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物中央及びエントランス正面に吹抜け空間を設け、開放的な空間としている。 機能性、更新性に配慮し、二重床や乾式壁を採用。 建物天井下の準構造耐震化、汚水の貯留槽ビットの設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存樹木を保存し、地域に残る風土・文化・景観に配慮。 大庇を設け、隣接する文化会館と空間的な調和を図った。 建物周辺には幾つかの広場を設け、ふれあいと交流・賑わいを図る。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 庇の設置、Low-e複層ガラスの採用、ブラインド等の設置で熱負荷を抑制し、省エネルギー化を図る。また、太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーの利用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 省水型機器を採用し、水資源の保護に努める。 普及リサイクル資材、再利用できるユニット部材、地球温暖化対策品などを採用し、環境負荷の低減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺公共施設駐車場との連携及び迂回ルートの確保等、渋滞混雑の緩和を図る。 大型空調機器は屋上への設置、隣接建物への日影影響を与えない等、周辺建物に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される